

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	セカンドホームしん下新城スクール		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別課題や集団活動など子供たちとの関りが多く、話を聞くことや一緒に遊ぶことを大切に、子供たちが安心感を持って、楽しみを感じながら通所できる環境づくりを心掛けている。	したい事や興味のある事を子供たちで出し合い、話し合い、みんなで考えて活動する時間を設けている。	今後も子供たちと話をする時間や一緒に活動する時間を大切にしていく。 施設内での活動について子供たちが選択・決定できる環境をつくることで、子供たちが安心感や楽しみを感じられる空間づくりに取り組む。
2	毎月研修会を実施し、指導員の知識を深め子供達の特性や性格に合わせた支援を心掛けている。	指導員間のアサーティブコミュニケーションを意識し、その都度、利用者の様子や気になる事を共有している。 また、職員全員がご利用のこどもたち全員の特性を理解し、すべてのこどもの支援に関わることができるように取り組んでいる。	些細な内容でも、情報共有ファイルや申し送りファイルを活用し、適宜 共有していく。
3	保護者とのつながり	日々の送迎時に活動の様子などを伝えている。 また、ご自宅や学校での様子を共有していただき、保護者とともに必要な支援を検討している。	保護者との会話を大切に、家庭の様子や学校での様子など困り感などを引き出せるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子供文化センターとの交流や、地域の他のこどもと活動する機会について	子供たちが負担を感じないよう、交流に目的や目標をしっかりと設定し、こどもたちの特性に十分に配慮した交流の機会を提供することが重要である。	こどもたちに必要な交流の機会は同世代だけでなく、さまざまな世代の地域の方々との交流が大切だと考えている。セカンドホームしん下新城スクールでは、地域住民や企業の皆様、大学生にも活動に参加していただき、こどもたちが普段の生活の中で関わるこ
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会について	さまざまな特性や年齢の子供たちにご利用いただいており、また、課題感や支援内容もさまざまであるため、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが効果的か検討する必要があると考えている。	ご利用者の皆様全員に必要な情報はお知らせ文などでお伝えしながら、各ご家庭や子供の個別の課題感や支援については、日々のフィードバック時や電話等で情報共有させていただき、必要に応じて面談の場を設けて課題にあわせた情報提供やアドバイス等を行って
3	各種マニュアルの策定や非常災害を想定した定期的な避難訓練等の情報発信について	行政の所管部署ともご相談しながら各種マニュアルを策定したり、定期的な避難訓練を実施したりしています。 また、それらの内容を参加した子供たちの保護者に口頭でお伝えしているが、保護者の皆様にしっかりと伝わっていない現状がある。	口頭でのご説明だけでなく、各種マニュアルや避難訓練の実施のみを扱ったお手紙等のご案内を発信していくことで、他の情報に埋もれず、保護者の皆様にしっかりと情報をお伝えすることができる仕組みづくりに取り組んでいきます。